



NPO 法人 京都観光文化を考える会

都草だより

第47号
 発行人：小松香織
 編集人：西野嘉一
 発行所：京都市上京区
 下立売通新町西入
 京都府庁旧本館2階
 電話：075-451-8146

■【京都御苑さんぽ】

昨年秋に、京都新聞社より地域版新企画『京都御苑さんぽ』の執筆依頼があり、既に 11 名の京都御苑研究会メンバーが担当したコラムが紙面を飾りました。4 年半、毎週日曜日に御苑のご案内をしてまいりましたが、また違った手段でその魅力を発信できますのは、やり甲斐もあり、大変ありがたいことと思っております。会員のみなさまには引き続き応援の程よろしく願いいたします。(理事長 小松 香織)

平成 29 年 11 月より連載されたコラム

- 中山邸跡 (副理事長 熊谷 喜輝)、巖島神社 (特別顧問 坂本 孝志)、蛤御門 (専務理事 田村 光弘)
- 土御門第跡 (監事 福井 大作)、橋本家跡① (監事 林 寛治)、学習院発祥の地 (会員 大谷 芙美子)
- 猿ヶ辻 (会員 須田 清司)、枇杷殿跡 (会員 宮川 恭子)、貽範碑 (理事 西野 嘉一)
- 堺町御門 (会員 羽田 徹夫)、近衛邸跡① (理事長 小松 香織)

『京都御苑さんぽ』を執筆して

京都御苑さんぽ

15 猿ヶ辻



木彫りの猿 鬼門封じ



「暗闇に顔を布で覆った男が三人。手は何やら鈍く光るものを持っている。刺客である。」
 文久3(1863)年5月20日夜、襲われたのは尊王攘夷派急鋒の公家姉小路公知。「猿ヶ辻の変(朝平門外の変)」と呼ばれる事件だ。

現在の「猿ヶ辻」は、慶応2(1866)年に拡張された京都御所の東北角にあり、鬼門封じのために築かれた京師守衛所を中心とした結果、公知を襲った太刀が薩摩藩士田中新兵衛のものであると疑われた。新兵衛は激しい尋問を受けたが、犯行を否認したまま自決した。事件の真相は闇の中だ。幕末に暗殺された公家は、公知のみである。

この事件などを契機に明治維新への激動の5年間は、NPO法人京都観光文化を考える会・都草 須田清司

いきなり私事で恐縮ですが、私は中学生ぐらいまで祖母と同居しておりました。その祖母に連れられて、小学生の頃よく京都御苑に行ったものです。御所の周りを歩きながら、御所に関するいろいろな事を教えてくれましたが、当時は無理解で「広いとこやな」と幼心に感じたものでした。今思えば猿ヶ辻あたりでしょうか。「この上になあ、おサルさんがいやはるんやで」と堀の上を指さして教えてくれたことを今も思い出します。学生時代は、学校が御苑に近かったこともありよく訪れました。しかし当時は歴史には全く関心がなく、昼休みや休講で空いた時間を埋めるために御苑を散策していました。やがて社会人になり、一時御苑の近くに住んでいましたので、早朝、自分で決めた御苑内のコースを約 30 分程走っていました。その時の爽快さは今も忘れられません。走っていたコースのどのあたりに石が地面から少し出しており走行に危ないかは覚えています。いま通ってもその石が顔をのぞかせているのを見ると、懐かしさや愛おしささえ感じます。

時は流れ、都草の会員になり、諸先輩をはじめいろいろな方々のご指導のもと京都御苑歴史散策ツアーガイドの一員として、ツアーに参加いただいたお客さまを少しでも「ああこのツアーに参加して良かったなあ」と思っていただけよう奮闘しています。そして今回、『京都御苑さんぽ』に小学生の頃に祖母から聞いた「猿ヶ辻」を執筆する機会に恵まれました。幼いころから御苑、御所に親しんできた私にとって、非常に感慨深いものがありました。新聞掲載後に友人、知人はもとよりご無沙汰していた人からも電話やメールで「見たで」と連絡をいただいたことが励みになりました。これからは御所、御苑の勉強を怠らず、楽しく、お客様にも喜んでいただけるガイドができればと切望しております。(会員 須田 清司)

■【京都高齢者大学校講座とツアーガイドについて】

京都高齢者大学校は、高齢者を中心に幅広い年齢層の方が学べる場で、永い人生における教養の向上、仲間作り、生きがいの創造、またより良い生活設計や社会参加のために必要な知識、趣味の習得を目標として設立された大学校です。都草としても、その設立の趣旨に賛同したうえで、ぜひとも協力をしたいとの思いから、講座の企画立案に携わり座学とツアーの2講座を担当することになりました。

座学の「京の都の歴史と文化」は平成28年4月の「京の社寺と動物」からスタートしました。ツアーの「ぶらり京都のまちあるき」は5月に「京都御苑歴史散策」と題してスタートしました。

初年度は定員30名を遥かにオーバーし急遽ガイド数を2名から3名体制に増員しましたが、2年度も非常に好評で、特にツアーの講座は募集即日には定員オーバーの状況で、ガイドも4名体制にしました。3年目の今年度も好評につきガイド6名で実施致します。座学は全10回のうち、5月に「明治維新と京の近代化」を皮切りに8回を担当します。

座学、ツアーとも大学校側の信頼も厚く参加者の評判も良いのは、ひとえに担当各位の努力のたまものと感謝しています。また今後も都草の社会的ポジションを高めていきたいと願っています。(理事 芦田 喜雄)

「京都高齢者大学校講師をして」



昨年9月、京都高齢者大学校にて「古事記はおもしろい」というタイトルでお話させていただきました。京都高齢者大学校がどのようなことをしておられるのかも知らずお受けしたのですが、受講者の皆様の勉強に対する真摯な姿を見て感動いたしました。1時間半お話した後、質疑応答では次から次と質問をして下さいました。それに一つ一つ答えながら、こんなに真剣に私の話を聞いて下さったのかと、とても嬉しかったです。

私自身、日ごろの勉強の大きな励みとなりました。このような機会を与えて下さった都草に感謝です。

(会員 堂園 光子)

「ぶらり京都のまちあるきを担当して」

京都高齢者大学校のツアー「伏見大仏から隠れた名所を探して」が6月22日に実施されました。スタートの墨染寺では、墨染桜に関心が集まりました。欣浄寺では「伏見の大仏」を見て、境内に残る深草少将と小野小町のロマンの跡に思いを馳せていただきました。

檀木町では、大石内蔵助遊興の廓跡と伝わるよろずやの碑を訪ねました。明治期に完成した墨染インクラインは、船溜りと、今は道路となった坂道から在りし日の姿を想像していただきました。そして、伏見最初の曹洞宗寺院榮春寺を通り、今も武家の名が地名に残る坂道を上り伊達藩上屋敷跡の黄檗宗海宝寺に到着、当寺ゆかりの人々の案内をして終了しました。少し汗ばむ日でしたが良い天気恵まれ、大過なく終える事ができホット安堵の半日でした。(会員 神山 友代)

